



No.7 令和3年12月6日(月) 2021-7号 (隔週発行)

発行責任者: 松江総合医療専門学校理事長 澤田勝寛

isonare@ka2.so-net.ne.jp 毎月第2、4月曜発行 令和3年(2021年)9月13日創刊

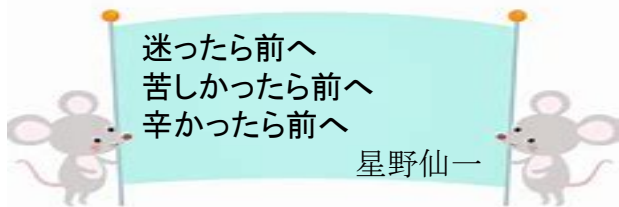
◆コロナ関係 オミクロン株

日本の新規感染者は1日100人前後にまで減少し非常事態宣言解除後も危惧した感染拡大は起こっていません。

南アフリカで新たに確認された変異株は、オミクロン株と名付けられました。感染力は重症度やワクチン効果の有無はまだ不明です。日本は水際対策として、いつになく素早い対応で、朝令暮改もありましたが、かなりの入国制限をしました。

そうすると、今度は規制が早すぎるのではという批判が出てきます。早ければ早すぎる、遅ければ遅すぎると、かましい評論家やマスコミがあおり立てますが、いつにないような今回の素早い対応は評価すべきだと思います。

～巧遅は拙速に如かず、勤るをもって拙を補う～
という言葉があります。巧(完璧)を目指して遅くなるよりも、拙(完璧ではない)でも速いほうがいい。そして、だんだん完璧になるようにすることが大切であるという意味です。ことを始めるにあたっては大事なことです。



◆医学の勉強 その2 臨床実習

英語でBed Side Learning(BSL)といい、ベッドサイドで学ぶことです。医療従事者を目指す学生が実際に患者さんと対面して、診察の仕方や実際の治療方法、診療録の書き方、コミュニケーションのとり方など、臨床での患者さんとのやり取りを勉強するための授業です。

学校の講義を座学とすれば、これは実学といえます。医療の現場は学校にはない緊張感があります。老若男女、急性期の患者さん、慢性期の患者さん、終末期の患者さんもいます。色々な悩みや不安を抱え、自分の病気に向き合っている人ばかりです。そのような患者さんを中心にして、その患者さんの治療のために様々な医療職が協働しているのです。

ボクシングで例えるなら、学校での学びはシャドウボクシング、病院での学びはリングでの実戦のようなものです。

シャドウボクシングとは、リング外でグローブをはめて素振りをしたり、サンドバッグに打ち込んで練習をすることです。鏡を見ながら、構え方やパンチの出し方などを繰り返してトレーニングします。そこで、ある程度技術が上がって初めて、リング上での実戦になります。今度は相手があります。サンドバッグ相手ならこちらが打たれる心配はありませんが、実戦で相手がいるとこちらにも打ち込まれます。いくらシャドウボクシングが上手くても、実戦となると力が発揮できないボクサーがいます。

医療の実習も同じです。学校で基本となる技術や知識を習得し、その上で臨地実習という病院実習が始まります。

学校での実習はいわばシャドウボクシングのようなもので、ここでしっかりと基礎技術を学び身につけることが重要です。その上で臨地実習という「実戦」が始まります。患者さんを前にして、病院の実習担当の先生方に教わりながら、学校で学んだことを現場で発揮できるかどうかを確認するのです。

最初はかなり緊張します。学校という場のシャドウボクシングでできたことも、病院というリングにあがると、何もできなくなることも珍しくはありません。

そこで、自分の未熟さと、医療の厳しさを知ることができるのです。それを経験することで、医療の勉強に取り組む姿勢がガラッと変わるのが分かると思います。

本校は、病院実習前の学内実習の取り組みにも力を入れており、写真のような実習用シミュレーター SCENARIO(シナリオ)を設置してます。この人体模型はコンピューターを使って様々な病態を作り出し、それに対してどのような処置をするかを学べるという、優れたものの器械です。

皆さんはしっかりとシャドウボクシングで鍛え、リングに上がるようにしてください。

